

エルサレム：根、交わり、代価を伴う 帰還

パウロはなぜエルサレムに繰り返し戻るのですか。

エルサレムはパウロの物語を、最初期の使徒たちの共同体、異邦人の受け入れをめぐる議論、信徒への救援、逮捕と結び付けます。深い結び付きと現実の対立がある場所であり、単なる宣教の敵や、キリスト教が捨て去った過去の段階ではありません。

単純な旅程には収まらない結び付き

ガラテヤの信徒への手紙は、パウロがケファとヤコブを訪れ、後に認められた指導者に自分の福音を示したことを記します。使徒言行録は複数回のエルサレム訪問を語ります。特にガラテヤの信徒への手紙2章の訪問をどう対応させるかで、研究者の見解は分かれます。調和を試みる前に、それぞれの記述を尊重しましょう。パウロは神からの召命を確信すると同時に、具体的な交わりと貧しい人への共通の配慮を述べています。

聖書の参照箇所: ガラテヤの信徒への手紙 1章18～24節・ガラテヤの信徒への手紙 2章1～10節・使徒言行録 9章26～30節・使徒言行録 15章1～35節

出典: letters, acts, chronology

連帯を形にする献金

エルサレムのための献金は、異邦人の教会とユダヤ人信徒の一致を具体化します。ローマの信徒への手紙は霊的祝福を受けた異邦人の負い目を説明し、コリント宛ての書簡は寛大さ、準備、説明責任を論じます。これらの本文では、貧しさと物質的な援助が関係の中心です。献金を旅の手掛かりだけに縮めたり、パウロの宣教への承認を買う行為と想像したりしてはいけません。

聖書の参照箇所: ローマの信徒への手紙 15章25～31節・コリントの信徒への手紙一 16章1～4節・コリントの信徒への手紙二 8章1～24節・コリントの信徒への手紙二 9章1～15節

出典: letters

具体的な原因をもつ逮捕

使徒言行録は、最後に描く訪問での告発、群衆、ローマ側の介入を記します。トロフィモに関する疑いが危機の一因となりますが、パウロが実際に彼を神殿へ入れたとは述べていません。ユダヤ人全体に責任を負わせてはいけません。パウロも、エルサレムの信徒も、ほかの多くの関係者もユダヤ人です。忠実な証しには、対立を正確に語りながら、一民族全体への受け継がれた敵意を拒む必要があります。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 21章17～36節

出典: acts

出典

- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/jerusalem>